

滋賀県立高等学校在り方検討委員会企画作業部会の現地調査の概要について

1 現地調査の日程等

開催日 令和2年11月20日(金)

出席委員 原委員(部会長) 大野委員 炭谷委員(愛知高校および能登川高校のみ)
高野委員(石山高校および守山北高校のみ) 中山委員

調査対象校 石山高等学校 守山北高等学校 愛知高等学校 能登川高等学校

2 現地調査の概要

(1) 石山高校

■学校からの概況説明の概要

○授業は生徒が互いに高めあい主体的に深く学べる魅力あるものにしており、さらに東京大学、京都大学、早稲田大学の見学会等も実施して、大学進学後のその先まで考える生徒を育てている。保護者の思いもしっかり受け止めて学校経営をしている。コロナ禍の中、スタディサプリを全生徒が加入し活用することで成果が上がっている。

○部活動や学園祭などは生徒の自主性を重んじており、生徒は思い切り楽しみ成長できている。音楽科は本校にとって大きな財産である。学校全体として取り組む必要がある。偏差値で学校を選択するのではなく、膳所高校に行ける生徒でも石山高校で学びたいという特色を打ち出し、特色で選ばれる学校づくりをしていきたい。

■授業や音楽科の施設・設備等を見学



■主な質疑応答

(委員)

今年から主体的で深い学びができる授業を始めたきっかけは何か。

(高校)

もう一度授業を見直し、教員主導ではなく生徒が積極的に参加できるような授業にしようとして取り組み始めた。教員の意識改革を進め、中から変えると、生徒や親がそれを発信してくれる。

(委員)

校長の任期は2年程度だと思うが、改革の流れを校長が変わってから次に引き継ぐにはどのような方策があるか。

(高校)

教員自らが当事者意識を持つことが重要。学校は、校長のリーダーシップではなく、教員が変わることによって変わる。3年はかかるだろうが教員の意識を変えていきたい。

(委員)

音楽科の定員が充足していない理由としてどのようなことが考えられるか。

(高校)

音楽で生計を立てることが難しくなっていることがあげられる。音楽を志している生徒は今

も相当数いるが、音楽科ではなく普通科に入って将来の選択の幅を広げたいという個人でレッスンを受けている生徒が多い。音楽科は普通科とはカリキュラムも異なるため、音楽や教育系学部以外への大学進学が難しいこともある。

(委員)

石山高校ではどういう生徒を育てたいと考えているか。

(高校)

自分で考えて解決する、主体的に行動できる生徒を育てたい。

(委員)

生徒や保護者、中学校からは、石山高校に対してどのような期待や要望が寄せられているか。

(高校)

高校で伸ばせているのか、自由な校風が単なる放任になっていないかのご意見をいただいたことがある。教員には、生徒を自分の子どもだと思ってしっかりと関わるように言っている。

(委員)

特に学校の課題と認識していることはあるか。

(高校)

これまで不登校となる生徒への関わりが薄かった。今では関わりを徹底するようにしている。

(2) 守山北高校

■学校からの概況説明の概要

○守山市や野洲市など地元の生徒が多く、ほとんどの生徒が自転車通学していて落ち着いた教育環境になっている。サッカー部が全国大会連続出場したときは地元で北高応援団ができるなど、地域との連携が学校の特色でもある。福祉施設でのフィールドワークや地域との行事などから学び、生徒は成長している。

○卒業後の進路は、大学進学、専門学校入学、就職が3分の1ずつとなっており、多様な進路希望に応じた学習・進路指導を行っている。進学先や就職先は自宅から通える範囲が多く、卒業後も地元に残っている生徒が多い。キャリア教育を充実させて、地域の人々や産業界と連携した学びにより生徒が社会から学び自らの進路を考えるようにしたい。

■授業等を見学



■主な質疑応答

(委員)

地元の守山市との連携はどのような状況か。

(高校)

市からの提案で起業家教育やキャリア教育、部活動での連携などを検討している。

(委員)

教員の授業改善の取り組みはどういったことをされているか。

(高校)

オーソドックスな授業が多いが、アクティブラーニングにもできるだけ取り組むようにしている。若い教員が頑張ってくれているところであり、これからだと考えている。

(委員)

部活動を核とした学校づくりとのことだが、加入率はどの程度か。また、課題は何か。

(高校)

男子は7割、女子は5割程度が加入している。部活動を目指した学校選択では私学との競合があることが課題。

(委員)

市内の中学校から進学する生徒の比率が低下傾向にある。地域密着を掲げる中、これをどう解釈されているか。

(高校)

遠方の学校へ進学する生徒も増えている。地域に支えてもらいながら、地元の本校に進学してもらえるようにしたい。

(委員)

地域と関わるにはコーディネータも必要だと思うが、誰がやっているのか。

(高校)

今は本校に長年勤務している教員や学校運営協議会の委員が間に入ってくれている。しかし教員の負担が増えると続かない。地域協働の取組を発展させ持続させる仕組みとしてコーディネータをきっちりと設置する必要があると考える。

(委員)

長浜市で学校と連携活動をしていたとき、自主的に参加を希望する生徒は少なく、生徒会活動をしている生徒に声かけをすると学校から聞いた。守山北高校ではどうか。

(高校)

本校でも同様であり、声がかかっても手をあげる生徒は少ない。地域との関わりが発展し、環境を整えば手をあげる生徒も出てきてくれるのではないか。

(3) 愛知高校

■学校からの概況説明の概要

○地域社会と共に学ぶ「地域共学」を大切にする高校であり、愛荘町まちづくり協働課と連携した「ゆめまちテラスえち」での授業や、商工会と協定を結び、高校3年生には全員就業体験を実施している。1、2年生は40人3学級を30人の4クラス展開にした授業で一人ひとりの生徒へ丁寧な対応をしており、生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。

○生徒の個性を生かす普通科のコース制を導入しており、入学後に音楽コース、体育コース、総合コースに分かれる。卒業後の進路は、就職が6割と多く、大学・短大や専門学校に進む生徒もいる。

○特別な教育的支援の必要な生徒に対して、特別支援学校教諭免許を持つ教員が週1回の通級指導を行っている。愛知高等養護学校が併設されて、交流授業や生徒会、部活動など生徒同士の交流があることも特色である。

■高等学校および高等養護学校の授業等を見学

■主な質疑応答

(委員)

音楽コースおよび体育コースには何名在籍しているのか。また内容はどのようなものか。

(高校)

音楽コースは1年生4名、2年生6名、3年生8名の計18名が在籍している。音楽を通じて情操教育を行うもので、初心者でも受け入れる。

体育コースは1年生8名、2年生15名、3年生15名の計38名が在籍している。生涯学習としての体育を学ぶもので、運動部に所属していることを要件としている。

(委員)

廊下でピアサポートの掲示を見た。

(高校)

高等養護の教員からの呼びかけで始めたもの。通級の生徒も参加してくれている。生徒が主体的に考えて行動してくれている。

(委員)

子どもに寄り添い、高めるような教員の血の通いを感じられた。授業の工夫として具体的にどういった取り組みをしているか。

(高校)

県教育委員会で実施している学びの変革に沿う形で実施している。その日の目当てを明示したり、注意が散漫する要因になる掲示物を撤去すること、学びをリスタートするタイミングを作るなど、ユニバーサルデザイン化を意識している。

(委員)

3コースの設置や30人学級の設置について人間的な苦勞はないか。

(高校)

生活、教育支援の教員が加配されており、特に丁寧な指導が必要な1、2年生で4クラス展開ができています。3年生は4クラスではなく3クラスとしており、できれば3年生も4クラスにしたいところだが教員の定数的に厳しい。高等養護との兼務もあり、高等養護の教員が高校を指導することがあり、またその逆もある。

(委員)

併設校のメリットはそこにもあるのだろう。デメリットはどう考えているか。

(高校)

高等養護学校にとっては、高校が傍らにあるので学校生活の枠組があり良い反面、できて当たり前になってしまうことから、個別の実態に応じた目標や手立てについて、高等養護の教員の意識が下がらないよう気を付ける必要がある。



(4) 能登川高校

■学校からの概況説明の概要

- 高校再編計画により総合単位制普通科高校となり、学ぶ目的やライフスタイルに柔軟に対応し、全日制（Ⅰ部）、定時制昼間部（Ⅱ部）、定時制夜間部（Ⅲ部）がある。保育体験実習など他校にない特色ある授業を開講している。高大連携講座や高卒認定試験などの学校外での学修の成果を単位認定している。Ⅲ部は就労やアルバイトで1日4時間以上を90日以上すれば1単位を認定している。
- Ⅱ部は中学校で不登校などの経験のある生徒が多いものの、全日制より始業が遅いことや20人ずつの少人数授業、人と話すことが苦手な生徒にはコミュニケーション演習も行うなどしており、ほとんどの生徒が登校して3年間で卒業している。一方で、教員の働き方の課題として、ⅠⅡⅢ部の生徒が朝から夜まで連続して登校しているため、教員全員の会議ができないことなどへの対応が必要となっている。

■授業等を見学

■主な質疑応答

(委員)

定時制のⅡ部は3年で卒業するとのことだが、ゆっくり学びたい生徒のために4年制をとることはできないのか。

(高校)

単位が足りなければ4年間学ぶことになるが、Ⅱ部は1日6時間授業があるので、学校としては3年で卒業できるよう指導している。多少とれない単位があっても3年で卒業できるカリキュラムとなっている。

(委員)

他の学校にない特色ある授業はどういった基準で設定しているのか。

(高校)

教員が教えることができる範囲のものでできるだけ生徒のニーズに応えられる特徴的なものを設定している。受講人数が少なくてもできるだけ開講するようにしている。

(委員)

不登校だった生徒がなぜ登校できるようになっていると考えるか。

(高校)

入学した生徒のほとんどが卒業できている。自分とよく似た経験をしている仲間がいることや、通学時間が遅くあまり人に会わなくて済むことなどが大きな要因ではないか。

(委員)

定時制の生徒にとっては、生徒が少ないということもメリットになるか。

(高校)

メリットであると思う。Ⅱ部、Ⅲ部は20人ごとに2クラスに分けており、少人数で指導することがプラスになっている。

(委員)

生徒間の学力差があると思うが、どのように個人個人に合わせているのか。

(高校)

極端な差はない。ほとんどが中学校段階でつまづいている。

(委員)

保護者の反応はどうか。

(高校)

中学校で長期間不登校だった子どもが登校できるようになり喜ばれている。保護者の喜びの声が教員の励みになっている。

(委員)

外部からのサポートはあるか。

(高校)

スクールカウンセラーと連携している。教員の中にも資格取得している者がいる。虐待の疑いがある場合は、児童相談所や市町の家庭児童相談室とも連携している。



3 現地調査に出席した委員の感想・意見等の概要

(1) 学校の情報発信

- ・現地調査前に各校のイメージはあったが、中を見ると少し違っていた。魅力的な学校であり、その魅力が保護者や地域の方々に十分に伝わっていないことを残念に思った。
- ・パンフレットは各校とも似たような内容が多いため差別化ができず、志望校を決定する決め手となる判断材料がない。他の学校との違いをいかに保護者に届けるかが課題であると感じた。魅力ある高校づくりはもちろんのこと、発信内容と方法を検討する必要がある。
- ・高校の情報発信にはもっと力を入れてよいのではないかと。情報提供は、受験生向けと地域向けの2方向が考えられる。受験生向けの情報発信としてはパンフレットやホームページを綺麗にするだけでも効果的ではないか。また、地元自治体の記者クラブへの資料投げ込み等の地域向けの情報発信も地域の応援を得るうえで重要である。
- ・トップリーダーである校長が学校セールスポイントを発信することが必要。その内容と方法を検討する必要がある。

(2) 地域との連携

- ・高校がその地域にある意味や地域との関係性はどの程度学校運営において考慮されるべきなのかということの一つの視点としてあると感じた。高校と地域の連携を進めるには、地元自治体や地域の協力が不可欠。地域側が高校に意識的にかかわっていく必要があるだろう。今後の地域における高校存続は、地域や地元自治体の本気度が試されるのではないかと。
- ・全県一区制の中、地域とともに歩む学校としての特色を出していることはすばらしい。地元自治体をはじめ地域の支援が生かされている。持続可能な社会の実現につながるものと感じる。
- ・コミュニティ・スクールを活性化し、生徒がお客さんではなく、「参画」の視点から継続した地域との連携が図れるとよいのではないかと。その柱に福祉教育、防災教育および産業体験等様々ある中から何を据えるかが課題である。
- ・音楽科のすばらしい設備を小中学校との連携した体験や発信に活用できないものか。

(3) 施設・設備

- ・学校ごとの設備の差が相当程度あると感じた。新設でなくとも校舎内の改修は可能な限りすすめられるとよいのではないかと。
- ・ICT機器の導入や特色ある学校づくりのための施設環境の整備が課題。
- ・設備の維持管理費が課題である。

(4) 学校長のリーダーシップ

- ・校長のリーダーシップによる学校改革を校長の異動後にどう継続するかが課題であると感じた。現場の教員だけでなく、学校運営協議会がその進捗確認をすることも考えられるのではないかと。
- ・校長のマネジメント力が生きており、行事やイベントに対してのみならず日頃の授業や学校生活においても生徒の自主性・主体性が育まれ、自由な校風のもと、生徒の輝きとともに深い学びを紡ぎだしている点がすばらしい。

(5) その他

- ・保護者から理解と協力を得られているのは、保護者の思いをしっかりと受け止めているという学校の体制があるからであると感じた。
- ・物理的な高校の役割として、切磋琢磨する場や教員に目をかけてもらえる場を提供する役割があるのではないかと。また、ゆるやかに授業に参加する場があることも大切であると感じた。
- ・地元の期待を背負いながら生徒が成長している。部活動や学校行事等をとおした生徒の自主的な取組の成果が生徒の成長につながっている。数名の生徒が議論を交わしながら、数学の学習をしている様子に自主性と学習意欲を感じた。
- ・学習塾との連携は、今後の学校経営戦略の一つと言えるだろう。

- ・キャリア教育を充実し「なんとなく入学・とりあえず普通科へ」と入学した生徒の夢と希望を育てることが必要。
- ・生徒が学校外で教育活動を行うこと、そこで培うコミュニケーション力と社会に貢献する素養を育むことが必要。
- ・特別支援教育とインクルーシブ教育システムの構築が必要。

4 今後の予定

◇企画作業部会の開催 1月15日（金）

《主な内容》

- ・これからの県立高等学校の在り方について
中間まとめ（たたき台）

◇第4回滋賀県立高等学校在り方検討委員会の開催 2月16日（火）予定

《主な内容》

- ・これからの県立高等学校の在り方について
中間まとめ（素案）